

令和3年度実施施策に係る事前分析表

(文R3-11-3)

施策名	国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備				部局名	スポーツ庁競技スポーツ課	作成責任者	南野 圭史		
施策の概要	国際競技大会等において優れた成績を挙げる競技数が増加するよう、各中央競技団体が行う競技力強化を支援する。日本オリンピック委員会（JOC）及び日本パラリンピック委員会（JPC）の設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、我が国のトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックにおいて過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収めることができるよう支援する。						政策評価 実施予定時期	令和4年度		
施策の予算額(当初予算) (千円)	令和2年度		令和3年度		施策に関する内閣の 重要施策(主なもの)	第2期スポーツ基本計画第3章 など				
	24,531,341		24,523,860							
達成目標1	中長期の強化戦略に基づく競技力強化を支援するシステムの確立、次世代アスリートを発掘・育成する戦略的な体制等の構築、スポーツ医・科学、技術開発、情報等による多面的で高度な支援の充実及びトップアスリート等のニーズに対応できる拠点の充実を通じて、各中央競技団体が行う競技力強化を支援する。				目標設定の 考え方・根拠	第2期「スポーツ基本計画」（平成29年3月文部科学大臣決定）第3章3「国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備」を踏まえ設定。				
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠		
	—	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	【測定指標及び目標値の設定根拠】 スポーツ基本計画において、JOC及びJPCの設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、我が国のトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックにおいて過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収めることができるよう支援を目指すことと定められている。 具体的には、オリンピックにおける過去最高の金メダル数は、夏季：16個（2004年アテネ、1964年東京）、冬季：5個（1998年長野）であり、そのことを踏まえて目標値を設定。 【出典】文部科学省調べ		
①オリンピック競技大会における金メダル数	年度ごとの 目標値	—	—	—	—	—	オリンピック における過去 最高の金メ ダル数			
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠		
	—	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	【測定指標及び目標値の設定根拠】 スポーツ基本計画において、JOC及びJPCの設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、我が国のトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックにおいて過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収めることができるよう支援を目指すことと定められている。 具体的には、パラリンピックにおける過去最高の金メダル数は、夏季：17個（2004年アテネ、1988年ソウル）、冬季：12個（1998年長野）であり、そのことを踏まえて目標値を設定。 【出典】文部科学省調べ		
②パラリンピック競技大会における金メダル数	年度ごとの 目標値	—	—	—	—	—	パラリンピッ クにおける過 去最高の金メ ダル数			

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
③オリンピック競技におけるメダルポテンシャルアスリート（MPA）数	108	122	157	169	168	168	過去最高のMPA数	<p>【測定指標及び目標値の設定根拠】</p> <p>各競技の世界最高峰の大会における競技成績を基に毎年算出する、メダル獲得の可能性のあるアスリート（メダルポテンシャルアスリート：MPA）数を測定指標とすることにより、毎年のオリンピック競技における強化の進捗状況を客観的に把握する。</p> <p>令和3年度においては、過去最高のMPA数を目標値として設定する。</p> <p>【出典】日本スポーツ振興センター調べ</p> <p>【算出方法】</p> <p>※以下の方法で算出した夏季競技と冬季競技のMPA数の合計を指標とする。</p> <p>1. 各競技における最高峰の大会（ベンチマーク大会）を設定する（オリンピック・パラリンピック開催年はオリンピック・パラリンピック。それ以外の年は多くの競技で世界選手権）。</p> <p>2. ベンチマーク大会において、8位以内に入った選手、ペア、団体・チームをMPAとする。</p> <p>3. 順位はオリンピックのレギュレーションに合わせて再算出する（オリンピックにおける各国のエントリー枠が限られている場合など）。</p> <p>4. ベンチマーク大会が開催されない年は、直前のベンチマーク大会の成績をもって代用する。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	168		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
④パラリンピック競技におけるメダルポテンシャルアスリート（MPA）数	176	125	194	213	195	202	過去最高のMPA数	<p>【測定指標及び目標値の設定根拠】</p> <p>各競技の世界最高峰の大会における競技成績を基に毎年算出する、メダル獲得の可能性のあるアスリート（メダルポテンシャルアスリート：MPA）数を測定指標とすることにより、毎年のパラリンピック競技における強化の進捗状況を客観的に把握する。</p> <p>令和3年度においては、過去最高のMPA数を目標値として設定する。</p> <p>【出典】日本スポーツ振興センター調べ</p> <p>【算出方法】</p> <p>※以下の方法で算出した夏季競技と冬季競技のMPA数の合計を指標とする。</p> <p>1. 各競技における最高峰の大会（ベンチマーク大会）を設定する（オリンピック・パラリンピック開催年はオリンピック・パラリンピック。それ以外の年は多くの競技で世界選手権）。</p> <p>2. ベンチマーク大会において、8位以内に入った選手、ペア、団体・チームをMPAとする。</p> <p>3. 順位はオリンピックのレギュレーションに合わせて再算出する（オリンピックにおける各国のエントリー枠が限られている場合など）。</p> <p>4. ベンチマーク大会が開催されない年は、直前のベンチマーク大会の成績をもって代用する。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	195		

達成手段 (開始年度)	関連する 指標	行政事業レビュー 番号	備考
ハイパフォーマンス・サポート事業 (平成27年度)	①～④	0321	—
スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (平成27年度)	①～④	0322	—
ハイパフォーマンススポーツセンターの基盤 整備 (平成29年度)	①～④	0320	—
ナショナルトレーニングセンター競技別強化 拠点機能強化事業 (平成19年度)	①～④	0325	—
競技力向上支援体制の充実 (昭和43年度)	①～④	0326	—
国民体育大会開催事業 (昭和30年度)	①～④	0324	—
日本オリンピック委員会補助 (平成2年度)	①～④	0327	—
女性アスリートの育成・支援プロジェクト (平成25年度)	①～④	0323	—
独立行政法人日本スポーツ振興センター運営 費交付金に必要な経費 (平成15年度)	①～④	0329	東京2020大会、北京2022大会をはじめとする国際競技大会における日本代表選手のメダル獲得に向けて、各競技団体が行う日常的・継続的な強化活動及びパリ2024大会等で活躍が期待される次世代アスリートの発掘・育成などの戦略的な強化について、オリンピック競技とパラリンピック競技の一体的な支援を実施する。
独立行政法人日本スポーツ振興センター研究 施設整備費補助金 (平成23年度)	①～④	0330	—
独立行政法人日本スポーツ振興センター施設 整備費補助金 (令和3年度)	①～④	新03-0014	—
昨年度事前分析表からの変更点	達成手段に新規事業を追記した。		